

→謎多き継体天皇と摂津に存在する二つの御陵

2018. 10. 14 (日) カルチャーウォーキング

関西文学散歩 第 538 回 参加報告

昼食後、徒歩で 20 分ぐらいの新池ハニワ工場公園へ、行きました。屋根付きの穴窯が 2 基、屋根なしのものが 1 基、一段高い所に大きな工房跡など復元されており、その工房跡の左手に、坂を利用して窯の発掘状態が階段状に分かる展示館があります。ここで、1500 年前にハニワを作っていたそうで、日本最古で、最大級のハニワ工場らしいと説明をうけました。貫頭衣や袷裵衣を着た男女が、ここで、沢山働いていたのだらうと目に浮かびます。池の回りの遊歩道に沿って、もちろん近年作られたものですが、色々な形のハニワが並べられていました。この工場跡では 530 年頃、今城塚古墳の埴輪を 10 基の窯で作った時代が最盛期となり、550 年には、前方後円墳が作られなくなったので、ハニワ工場も廃止となったのです。しかし、1450 年余り前の工場跡が、よく残っていたものです。



新池ハニワ工場公園－窯跡



新池ハニワ工場公園－工房跡

さて、ハニワ工場見学後、一旦解散となりました。疲れた人は近くのバス停から帰ることが出来るようです。10 数名が帰られたでしょうか、殆どの人は次の目的地、太田茶臼山古墳（宮内庁治定継体天皇陵）へ向かいました。

この古墳は全国 21 位の規模で、5 世紀中頃の築造と推定されています。正面から御陵を参拝し、太田公民館前の説明板を読むと、『記紀』に継体天皇の御陵「藍野陵」と書かれている陵墓で、宮内庁がこれを三嶋藍野陵としたらしいです。ここまでの道筋に、陪塚(ばいちょう)が数基ありました。陪塚とは、中心となる大型古墳に埋葬された首長の親族、臣下を埋葬するもののほか、首長の副葬品を納めるために築造されたものと考えられています。

今日のコースの最後は、女九神社です。どう読むのかと思っていましたら、「めくじんじゃ」だそうで、継体天皇崩御の時に 12 人の妃のうち 9 人が殉死され、天皇の御陵の傍らに、葬り祀ったとご由緒板に書かれていました。太田茶臼山古墳からは南へ約 500m の位置、今城塚古墳からだとな西へ約 1.5 km のところに女九神社は鎮座しています。はてはて、継体天皇はあの世からどっちの神社をお詣りしたものか。なんて事を考えながら、朝出発した JR 摂津富田駅へ到着しました。秋の好天気にも恵まれて、古代に想いを馳せた一日でした。



今城塚古墳公園－埴輪祭祀区

<報告：池内 洋>